



【脳科連連携法人一般会員のご挨拶文】 鎌谷 直之（株式会社スタージェン 代表取締役会長）

今回、脳科連連携会員に加えていただいた株式会社スタージェンの会長、鎌谷 直之です。私は学生時代から、今後の科学のフロンティアは「モノ」から「情報」に移ると確信し、情報の最上位は遺伝子であると考えていました。そこで、学生時代から大型コンピュータのプログラミングを得意とし、1973 年東京大学医学部卒業後は遺伝学、さらには遺伝学に由来する統計学、DNA の基礎となるヌクレオチド代謝を専門としました。臨床では痛風、高尿酸血症を専門とし、1979 年から米国スクリプス研究所に留学しました。私は、遺伝統計学的考察から、遺伝病だけではなく、がんも遺伝子の変化で起きると確信していたので、1980～82 年に、がんの酵素を測定し、悪性細胞株の 23%、in vivo 白血病細胞の 10%に methylthioadenosine phosphorylase (MTAP) 完全欠損を発見しました。また、メトトレキサート等を用いた MTAP 欠損がんの個別化治療法を発見し、報告しました。これは世界最初のがん抑制遺伝子、がんの個別化医療法の発見でした。最近でも世界の 20 以上の製薬会社が、我々が 45 年前に発見した MTAP 欠損がんの個別化治療薬を開発しています。帰国後、東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センターのセンター長を務めた後、中村 祐輔先生の設立された理化学研究所ゲノム医科学研究センターのセンター長を務めました。私はゲノムデータが得られる前から遺伝学、統計学、コンピュータの詳細を理解していたので、センターが世界で初めて、膨大な解析結果を継続的に発表した GWAS 研究を効率よく指導できたと思います。21 世紀になり、私は数学、物理学、宇宙論などの最新動向から、科学のフロンティアが情報からエネルギー/エントロピーに移ると確信しました。株式会社スタージェンは、エネルギーが重要な役割を果たす脳に注目して新薬の開発を進めています。脳科連の方々とのディスカッションを希望しています。

【第 35 回リレーエッセイ】 日本睡眠学会理事長 内村 直尚

日本神経内分泌学会からバトンを受けて、今回は日本睡眠学会からのエッセイです。

日本睡眠学会は、生理学、生物学、臨床医学、臨床検査学、心理学、工学、看護学、公衆衛生・疫学など睡眠に関連した多彩な分野の 4,500 名を超える会員が、多様な見地から睡眠について学び考える姿勢を培ってきました。

また、日本睡眠学会の目指す主なビジョンとして、①睡眠障害科の標榜、②WHO 国際疾病分類第 11 版 (ICD-11) において睡眠障害が精神疾患や神経疾患から独立したことを受けて厚生労働省に睡眠障害の担当部署の設置、③大学の医学教育モデル・コア・カリキュラムの中での睡眠医学教育制度の設立・充実、④科研費に「睡眠」に関連した細目の追加、⑤乳幼児から成人・高齢者のからだところの成長・発達および健康増進、疾患予防、早期診断を実現するための睡眠健診の導入を掲げています。

ところで、本邦では不眠症や睡眠時無呼吸症候群などの睡眠障害に対する睡眠医療の体制はまだ十分とはいえないのが現状です。最大の課題は睡眠障害の診療を行う科が精神科、呼吸器科、循環器科、神経内科、耳鼻咽喉科、小児科などの多岐にわたり、どこを受診してよいか分かりにくい点です。受診できる窓口を国民に明示できるよう、組み合わせで標榜できる新たな標榜科として睡眠障害科の設置を厚生労働省に要望してきました。その結果、医道審議会の上承を経て 18 年ぶりに医療法が改正され、内科や精神科などの診療科名との組み合わせで「睡眠障害」が標榜できるようになりました（本年 6 月 1 日から施行）。9 月 10 日時点で、全国で 216 施設が睡眠障害を標榜しています。

睡眠障害内科、睡眠障害精神科あるいは内科（睡眠障害）、精神科（睡眠障害）等の睡眠障害の標榜が実現化し、睡眠医療ネットワークが構築されることで、医療者に睡眠障害に関する幅広い知識・技術のさらなる普及・定着が進むよう邁進していきます。

さらに、睡眠障害の標榜により、国民の睡眠医療へのアクセスが改善され、早期の診断治療によって国民の健康増進や生活の質の向上につながると確信しています。最後に、日本脳科学関連学会連合の今後の益々のご発展を祈念いたします。

次回のリレーエッセイは日本神経学会代表理事 和泉 唯信先生にバトンタッチされます。

【第13回脳科学オリンピック結果ご報告】 脳科学リテラシー委員会委員長 奥村 哲

第13回脳科学オリンピック日本大会は、4月末から5月上旬にCBTで行われた予選参加者79名のうち、上位8名を予選通過者とし、7月に日本代表と最終順位を決めるファイナル試験を対面で行いました。その結果、以下の順位が確定いたしました。なお、この入賞者8名は、7月30日～8月2日に神戸で開催されたNeuro2026(第49回日本神経科学学会大会・第69回日本神経化学学会大会・第36回日本神経回路学会大会合同大会)に招待され、期間中に表彰式が行われました。また副賞として「世界一面白い脳の講義—脳の謎を科学で解き明かす(ブルーバックス)：日本神経科学学会(編)」が授与されました。また入賞者のみなさんは、理化学研究所生命機能科学研究センター(BDR)のラボ見学を行いました。

第13回脳科学オリンピック日本大会の最終順位は以下の通り(敬称略)です。

1位 伊佐 賢杜(日本代表)、2位 佐藤 凜奈、3位 山田 彩加、4位 木内 和奏、5位 時 立薫、6位 寺西 かれん、7位 海津 優吾、8位 原田 優歩
おめでとうございます!

なお、優勝された伊佐 賢杜さんは、11月にオンライン開催される脳科学五輪世界大会に日本代表として出場する予定です。

これまで、資金面を含めて本大会を温かくご支援くださってきた脳科連会員学会の先生方(特に入賞者全員を大会にご招待してくださった日本神経科学学会の先生方)、共催のNPO法人脳の世紀推進会議、ラボ見学、学会イベントなどにご協力いただいた(あるいはこれからお引き受けいただく)大学などの脳研究施設の先生方に深く御礼申し上げます。

なお、今年度の「脳科学オリンピックの寄付金募集」は募集期間：10月6日(火)～12月4日(金)で予定しております。改めて事務局よりご連絡いたしますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

【2026年度副代表・運営委員選挙日程のご案内】

副代表選

10月6日 代表からの選挙公示

10月6日～19日正午 副代表立候補および推薦受付(所定の書式を電子書面で事務局に送付)

詳細は10月6日に配信されます選挙公示でご確認ください。

運営委員選

11月9日 代表からの選挙公示

11月9日～16日正午 運営委員立候補および推薦受付(所定の書式を電子書面で事務局に送付)

詳細は11月9日に配信されます選挙公示でご確認ください。

【活動報告(8月～9月)】

- ・NEURO2026 ランチョンセミナー開催(8月1日)
- ・代表選(8月3日～8月19日)
- ・第48回運営委員会(メール審議8月17日～8月26日)

【事務局だより(主に会員学会事務局向け)】

- ・脳科学オリンピックの寄付金募集期間は10月6日(火)～12月4日(金)となります。ご協力をお願いいたします。
- ・評議員の変更がございましたら、事務局までご連絡をお願いいたします。
- ・メールマガジン内容へのご意見やお問い合わせは、貴学会の事務局経由でお願いします。